



**第二期分
野外ステージなどが
完成**

長木川市民ひろば新設事業は、五十七年度にシンボル花壇が完成しており、五十八年度事業で建設していたお祭り広場、野外ステージ、ゲートボールコート四面も三月末に完成しました。

今年度は、東大橋から大館大橋の downstream 約百メートルの区間に、国からの工業再配置促進費の補助を得て総工費一億二千万円で河原庭苑や親水テラスなどを建設します。

河原庭苑には、身近に水に親しむことができる小川や池、それに池の回りにはゆるやかな起伏の芝生広場やつつじ園などが設置されます。また川に面したところには、気軽に水遊びのできる親水テラスも設けられます。

なお、野外ステージやゲートボールコートについては、後日お知らせします。

山々の緑が匂うわが郷土

南ヶ丘・竹村志代子さん

第35回秋田県植樹祭テーマ決まる

五月十日、当市を会場にして開催される「秋田県植樹祭」のテーマが決まりました。

テーマの公募には百六名の応募があり、選考委員会で審査した結果、最優秀には旭ヶ丘の竹村志代子さんの作品が選ばれました。その他の入賞者は次のとおりです。

- 優秀賞**・柳谷栄三郎(有浦一丁目) 阿部ミツエ(松峰)
- 優良賞**・金 正子(長面) 成田純一(南神明町) 榎木タミ子(相染町) 三上鏡蔵(有浦六丁目) (敬称略)

農用地利用計画案を縦覧

当市の農業の発展と振興を図るため昭和四十八年に定められた「農業振興地域整備計画」が、農業情勢の変化により実態にあわなくなってきたため、今後十年間を見通して計画の一部を変更しました。

同計画のうち農用地利用計画案を次により縦覧します。なお農用地区域にある土地の所有者やその土地に権利のある方で、同案に異議があるときは、縦覧期間終了の翌日から十五日以内に異議の申し立てをすることができます。

縦覧日・59年5月2日まで、日曜、祝日を除きます。

粕田沢多目的集会所施設が完成

昨年十一月から中羽立地内に建設されていた、粕田沢農林業多目的集会所施設が三月月中旬完成し、四月一日完成祝賀会が開かれました。



同施設は、粕田・中羽立・岩本・清水川の四地区の共同施設で、農業者などの研修と交流を図る目的で建設されたものです。総事業費は五千二百万円、国の第三期山村振興農林漁業対策事業の補助を受けて建設。建物は、木造一部鉄骨造りで、調理室や十五畳敷きの研修室二室、バレーボールコートが一面とれる広さの多目的ホールが設けられています。

今後は、子供会や婦人会、老人クラブなどの活動や農業者の研修、スポーツなどと幅広く利用されるものと期待されています。

人事異動

四月一日付の人事異動で、課長が次のとおり変わりました。

企画室長	田畑 準吉
総務課長	伊多波浩政
職員課長	椿田 邦夫
保険年金課長	八代 憲
商工観光課長兼働く婦人の家館長	浜松 和平
青少年ホーム館長	石戸谷敏郎
農林課長	畠山 利一
収納課長	三浦 正孝
市民生活課長	西村 正三
出納室長	藤盛 健吉
教委・学校教育課長	畠山 善三
選管・事務局長	高橋 光男

市長の対話ノート



No. 87

子育て

人間の一生の中には、さまざまな教訓があります。その教訓を次世代の人間がそのまま延長線で引継ぎ発展させることは不可能であるといえます。つまり同一ではなくとも歴史は、ある意味で繰り返されているということになります。

両親から生を受けた子供は、親や家庭の感性で成長し、二、三歳の幼児はすでに知的要因、つまり素質の急激な発達があるそうです。ここで人間としての原点、感性と理性の形成ができるといえます。

私たちが「感情と創造性」を奪った何が残るでしょうか。

ピッカ、ピカの一年生をはじめ学校では新学期がはじまりました。親以上の人間に育てたい願いは共通であります。しかし、それ以前に創造性にあふれ、情緒豊かな人間を育てることが前提でなければなりません。

かわいさが余り、賢さを追求することは余りに受動的人間を育てる結果になるのではと考えられてなりません。親と同じではないにしても、あらゆる体験の中から自主性を育てることこそ大切なことではないでしょうか。

与えられたことを消化するだけでなく、自ら進んで考え、仕事を発見し、創造することこそ、いつの時代でも変らぬ人間として求められていることを忘れてはならないと思います。

留山 健治郎